

## 空を見あげて

町田市立つくし野中学校 一年 工藤 美結

町田市の空は、いつも色が違う。それは、カワセミたちが市民のリクエストに合わせて空の色を変えてくれているからだ。近くの木の穴や枝に、リクエストの色を書いた紙を置く。するとカワセミたちがそれを回収し、リクエストが多かった色に町田市の花のエキスで空を染める。例えば今日は、「空を黄色にしてほしい」というリクエストが多かった。するとカワセミのリーダーは

「今日は黄色のコスモスエキスを使おう。」

と指示した。カワセミたちはエキスを入れたじょうろを持ってエキスをまきながら雲の上を飛ぶ。町田市の鳥たちは飛ぶ訓練を受けているため、雲の上という高い所までも飛ぶことができるのだ。エキスはカワセミが発明した不思議な成分のおかげで、空に綺麗にしみこむ。そして午前九時から午後六時の間、町田市の空の色は黄色になる。この九時から六時という時間も、カワセミが考えたもの。朝の日の出、夕方の夕焼け、夜の星空は自然のままに楽しみ、残りの時間は色のついた空を楽しむことができるのだ。この空の写真はネットで話題になり、最近では町田市は多くの若者たちでにぎわっている。

ある日、カワセミのリーダーは頭をかかえていた。

「ムムム……。どうしたことか……。」

なんと五つのリクエストの票数が全て同じになってしまったのだ。

一つ目は、ピンク色のリクエスト。

二つ目は、紫色のリクエスト。

三つ目は、白色のリクエスト。

四つ目は、赤色のリクエスト。

五つ目は雨水に色がついていて洗濯物が汚れたので色を変えないでくれというリクエストだった。

「ウーン……。……。……。ソウダ！」

リーダーはあることをひらめき、

「赤とピンクのサルビア、白のコスモス、紫ののぎくのエキスを同じ量ずつ用意して、離れた所にそれぞれまくんだ！」

と指示した。カワセミたちがその通りにすると、色々な所から場所によって色が違っていろ

ことばらんど賞  
工藤美結「空を見あげて」

か、雨が降ったら困るんだとかいう意見が来た。リーダーは素早く次の指示を出す。

「みんなで羽を使って風を起こすんだ！何羽かは洗濯物が干してある家を探して、洗濯物の上でこの大きな布を持っておくのダ！」

指示通りカワセミたちは雲の中で羽ばたいて強い風をおこす。すると空の色が混ざりだした。それと同時に、雨が降ってくる。そしたら大きな厚い布を持ったカワセミが布で洗濯物をガードした。カワセミの特技である水面ダイブを披露して、文句を言う人々を落ち着かせるカワセミもいた。雲の中のカワセミたちは一生懸命風をおこす。メジロやシジュウカラも助けに来て、みんなで空の色を混ぜた。

空の色たちは混ざってマール柄になり、市民は見たことのない空に笑顔になった。

それ以来、町田市はさらに有名になった。空の色の雨水で布を染め、それを洗うことで綺麗な薄い色の布ができる「空染め」もお土産として人気になった。さらに、強風によって流れた色のついた雲は色々な所に流れ、色のついた空は全国に広まった。その発祥地である町田市の人々は観光の案内やお土産の販売に毎日大忙しだ。

そんな人々を、カワセミたちはいつも見守っている。

さて、今日の空は何色かな。

審査員講評

\*\*\*\*\*

細部の描写がいきいきとしています。カワセミたちがドタバタ奮闘する姿がとっても楽しい。特に、洗濯物を布でガードするところ、文句を言う人を芸で落ち着かせるところが素敵です。「町田市の鳥、カワセミ」という情報に愛おしい手触りとロマンを与えてくれる作品でした。

—— 藤岡 みなみ